様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２１年　５月　３１日現在

研究種目：基盤研究（C）
研究期間：２００７～２００８
課題番号：１９５２０２５３
研究課題名（和文）初期印刷本期にみる作者と印刷家による協同出版活動の出現に関する研究

研究課題名（英文）On the Collaborative Project between an Author and a Printer in Early English Books

研究代表者
向井　剛（毅）（MUKAI TSUYOSHI）
福岡女子大学・文学部・教授
研究者番号：４０１３６６２７

研究成果の概要：

W.ボンドの宗教書『完全無欠の道』(*Pylgrimage of Perfection*)には R.ピンソン版（1526 年）と W.ド・ウォードの改訂版（1531 年）がある。本来サイオン・アベイの修道女向けに書かれた書物が、序文の改訂、木版画の挿入、本文の布置等に改訂が施され、著者と印刷家の協同のもとに読者（顧客）の拡大と一般化が図られたことを解明した。実用書やロマンス作品に平行して、宗教書ジャンルにおける著者と印刷家との協同出版戦略誕生の事例発見は、同じ著者による *Directory of Conscience* (1527; 1534)に先立つものと位置づけられる。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００７年度	1,200,000 円	360,000 円	1,560,000 円
２００８年度	500,000 円	150,000 円	650,000 円
年度			
年度			
年度			
総　計	1,700,000 円	510,000 円	2,210,000 円

研究分野：　人文学
科研費の分科・細目：　文学・ヨーロッパ語系文学
キーワード：　初期印刷本、書物出版史、ド・ウォード、ピンソン、ボンド、*Pylgrimage of Perfection*、*Directory of Conscience*、書誌学

１．研究開始当初の背景

15 世紀末の刊本揺籃期に出版された作品の多くは、過去の作者や作者不詳のものであった。イギリスの書物出版史上、作者が確認・明記され、かつ印刷家と連携をとりながら作品出版が行われた最初の例は、S.ホウズ(Stephen Hawes)がド・ウォードの印刷所か

ら出版した『美徳の範』(*Example of Vertu*) (1509 年)と考えられている。本文と木版画の関連からこの事実を明らかにした A.S.G. Edwards (1980)の研究を、申請者(Mukai (1990))はさらに第２版と第３版に観察されるテクスト改訂ぶりに議論を拡げ、作者と印刷家とが協力する出版活動の一端を明らかにした。ここに協同出版のさきがけを見た印刷家たちが、他に連携をとりながら編集･出版活動を行ったか否かについては、その後 Keiser (1999)や Orme (1999)らにより実用書（特に文法書）の領域において研究が進められた。現在、他のジャンルにおける事例研究と、胎動を始めた著作権意識を背景に、当時の協同出版に関する総合的解明がまたれるところである。

以上の研究動向を受けて、本研究では宗教書の出版物を対象に、協同出版による作品を探し当て、顧客（読者）を強く意識した、書き手と出版者とのコラボレーションの実態を解明することとした。

既に 2001 年度の海外調査において、シオン教会信徒に向けて書かれた宗教書『完全無欠の道』(*Pilgrimage of Perfection*) (1526 年[1]、1531 年[2])に、著者自身が行ったと判断される興味ぶかい編集の跡を一部発見していた。両版の 308 葉に及ぶ本文に見られる異同、章の配列、標題紙、木版画の配置、丁付け、フォリオ番号を精査することにより、本作品を宗教書ジャンルにおける協同出版活動の発見事例となし、初期印刷本期における作者と印刷家との連携ぶりを総合記述することを考えた。

２．研究の目的

本研究は『完全無欠の道』に関する初めての書誌学的研究の試みである。ボンド(William Bonde)が書いたと推測される本作品には、ピンソンによる初版（1526 年）とド･ウォードによる改訂版（1531 年）が現存する。ピンソン版は、申請者の予備調査により、特異な折丁記号と配列を持っていることが判明している。この不規則な丁付けは、組み版、印刷プロセスにおける著者の注文と介入により引き起こされたと考えられ、原稿の入校ぶりと印刷現場の混乱を暗示している。

本研究では、ピンソン版とド･ウォード版を比較することにより、下記の点を明らかにする。

（１）ピンソン第１版の本作りの＜乱れ＞を確定し、その原因と考えられる、印刷途中に序文や目次、或いは原稿を追加する著者の振る舞いを明らかにする。

（２）ド･ウォード改訂版の奥書には、「丁寧に訂正を施した」の記述が見られるが、印刷家と著者との連携により、初版の乱れがどの程度改められたのかを記述する。

（３）シオン教会信徒用に書かれた本書が、読者（顧客）を拡大するために、印刷家と著者の協同のもと、序文の改訂、木版画の使用、或いは本作りにどのような工夫が凝らされたのかを明らかにする。

（４）大英図書館蔵コピーには『完全無欠の道』の受容を示す、種々の欄外書き入れがあり、加えて２ページにまたがり本文が消されている箇所がある（また、数葉が破り取られた現存コピーもある）。著者と印刷家による協同ぶりを明らかにするとともに、宗教改革後の読者反応をも併せて論じる。

３．研究の方法

マイクロフィルムによる本文の比較校合を、海外図書館に所蔵される現存コピーを実際に観察・調査することにより補完し、かつ同時代読者による書き入れを詳細に調べることが研究方法の核となる。具体的には下記のような手順で研究を遂行した。

（１）ピンソン第１版の確定した本作りの乱れを、印刷途中における著者介在（序文や目次、或いは原稿を追加する著者の態度）の観点から解釈を施す。

（２）調査資料をもとに、第２版の改訂ぶりを明らかにし、その改訂過程に著者の意志が関与する可能性を検討する。

（３）サイオン・アベイのために書かれた書物が、個別、局所的使用から解放され、一般読者向けに出版されるとき、本づくりにいかなる改編が加えられるのかを、出版戦略の観点から考察する。

（４）最後に、本書の受容論を交えて、上記で得られた結果を総合し、宗教書ジャンルにおける著者と印刷家とのコラボレーションを記述する。

４．研究成果

本研究により、下記のような成果を得ることが出来た。

（１）ピンソンの初版に観察される本づくりの乱れを全篇にわたり記述し、印刷途中にお

ける著者介在（序文、原稿の追加、テクスト配列の変更と指示などを行う著者の態度）を想定した上で、この＜乱れ＞を印刷現場と著者との連携ぶりの観点から解釈した。

２つの版に観察される主要な異同は次の通りである。

①テクスト布置の混乱ぶりがピンソン版の丁付け記号と配列の中に観察できる。
A^6 a^4 a^8 ✢^{2}; A^4 B^8 C^4 D^8 E^4 F^6 G^4 H^8 I^4 K^8 L^4 M^8 N^4 O^8 P^4 Q^8 R^4 S^8 T^4; $2A^6$ $3A^4$ $3B^6$ a^4; a^8; $2A^4$ $2B^8$ $2C^4$ $2D^8$ $2E^4$ $2F^8$ $2G^4$ $2H^8$ $2I^4$ $2K^8$ $2L^4$ 2^8 $2N^4$ $2O^8$ $2P^4$ $2Q^8$ $2R^4$; $3A^4$ $3B^8$ $3C^4$ $3D^8$.

②ピンソン版目次に、「ここに第１と第２の巻の目次が終わる。この後序文が続く」とあるが、この序文は実際には sig. A1^r に始まる序文を指し、ド・ウォード版では指示通りに配置されている。

③ド・ウォード版の３カ所に大型木版画が折りたたみ挿入されている。
fol.30-31, fol. 67-68, fol. 90-91. (Hodnett Nos. 870, 871, 872)

④「第２巻第６章の後に置くべき」と明記されたピンソン版本文(sig. a1-a4)がド・ウォード版では指示通りに配置（挿入された第１木版画の直後）されている。

⑤「‘the tree of grace’の話は第２巻第１６章の後に置くべきであった」とのピンソン版の指示が、ド・ウォード版で実現(fol. 48^r-)され、かつ冒頭部分が書き改められている。

⑥ド・ウォード版の内題(fol. 73^r)が巻と章の構成をわかりやすく提示し直す。

⑦ピンソン版「６日目の話」４９章で構成されているが、ド・ウォード版では更に２１章を追加挿入し、７０章に拡大。

⑧「第３巻、初日の記述の第９章の後に置くべき」と明記されたピンソン版本文(sig. *second* a1^r-a8^v)がド・ウォード版では指示通りに移動（挿入された第３木版画の直後: fol 141r-145^v）されている。

⑨ド・ウォード版は“The Rosary of our Savyour Jesu”(fol 298-308)が追加されることが明記された上で、１つの書として製本されている。

上記④の例は、すべての本文が印刷し終わった後に作成される「前付き事項」の中で、印刷家による本文配置の指示が行わた事例である。つまり、印刷者サイドが本文の組み忘れに気づいたのか、或いは本文が印刷された後に著者から原稿が届けられたのか、のいずれかの可能性を示唆している。

（２）ド・ウォード改訂版の標題には、著者自身が“The Rosary of our Savyour Jesu”を付加したこと、また奥書には「丁寧に訂正を施した」の記述が見られるが、初版の乱れが解消され、かつ本文に加除修正が行われている事実などから、著者と印刷家の協同作業が行われたと判断される。

（３）本来サイオン・アベイのために書かれたはずの書物が、読者（顧客）を拡大するために、印刷家と著者の協同もと、序文の改訂、木版画の使用、或いは本作りにどのような工夫が凝らされたのかを出版戦略の観点から観察・解釈を試みた。同時に、著者 W.ボンドには、読者の一般化を示唆するタイトルページの変更を試みた宗教書 *The Directory of Conscience* (1527; 1534)があるが、両者に伺える共通点を、著者を軸に考察した。

（４）現存するコピーに観察される、読者反応としての書き入れや欄外注釈等を記述し、本書の受容ぶりの一端を明らかにした。

特に BL コピーには、例えば‘purgatory’の語句がほぼ例外なく抹消され(sig. F6^{r}ほか)、カトリックの思想を暗示させる箇所には波線が施される(sig. M3-4)など、宗教改革後の本書の受容ぶりが窺われる。また、ケンブリッジ大学図書館コピーには、意図的と判断されるページの欠葉が観察される。

以上のように、宗教書に関する連携出版の事例を見出し、一宗派の書物が著者と印刷家との協同により読者層を拡大する出版戦略誕生の実例を観察することができた。本研究に見た宗教書のジャンルにおける協同ぶりを、文芸書や実用書の協同出版事例とともに総合的に当時の出版事情を解明する作業が今後の課題である。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　０　件）

〔学会発表〕（計　３　件）

①　向井剛（毅）「シンポジウム：トマス・マロリー研究―日本からの更なる発信」日本中世英語英文学会　第 24 回全国大会　2008 年 12 月 6 日　大阪府立大学

② 向井剛（毅） 「W.ボンドの *The Directory of Conscience* (1527; 1534) の標題について」福岡女子大学大学院英文学会（2008 年度）
2008 年 5 月 28 日 福岡女子大学

③ 向井剛（毅）「研究発表：W.コップランド版『アーサー王の死』の謎―タイトルページを探る」日本英文学会 第 79 回全国大会 2007 年 5 月 19 日 慶應義塾大学

〔図書〕（計 2 件）

① 向井剛（毅）『中世イギリス文学入門』（雄松堂出版）2008 年 454 頁 (245-253)

② 向井剛（毅）『テクストの言語と読み―池上惠子教授記念論文集』（英宝社）2007 年 497 頁(398-414)

〔産業財産権〕
○出願状況（計 件）

該当なし

○取得状況（計 件）

該当なし

〔その他〕

なし

６．研究組織
(1)研究代表者
向井 剛（毅）(MUKAI TSUYOSHI)
福岡女子大学・文学部・教授
研究者番号：４０１３６６２７

(2)研究分担者
なし

(3)連携研究者
なし